

「昭和」を創った

工芸作家たち



高橋 節郎「花」/漆芸

Exhibition of Crafters Created the Showa period

現代につながる工芸の大作家を輩出し、激動の64年を数えた「昭和」。その時代の日本は昭和20年を境に、価値観・物質・制度などの様々な面で大きな変革を遂げました。

今回は、大正に生まれてこの時代を生き抜いた作家達を紹介いたします。国内外の工芸素材や技法を学び、時代のうねりの中で自己の世界を確立した作家達。その作品は国内外にて多くの賞賛を受け、今現在も高く評価されています。

2018.12.1 sat — 2019.1.22 tue

※2018年12月29日(土)~2019年1月4日(金)は休館とさせていただきます

平成記念美術館 ギャラリー

[開館時間] 10:00 - 18:00 (入場は17:30まで)

[休館日] 日曜日・年末年始

[観覧料] 無料

[主催] 株式会社 平成建設



帖佐 美行
「花鳥紋香炉」/彫金

 平成建設

昭和30年代の工芸は、生活を豊かにする新たな工芸を生み出す流れ、技法を守り伝統を遵守していく流れ、技法を含めて創造しつつ工芸の枠を超えて新たな価値観を模索する流れなどが相次いで起こります。その中で昭和36年(1961年)に工芸運動が創立されました。設立時に発表された主旨に「工芸の本義は作家の美的イリュージョンを基幹として所謂工芸素材を駆使し、その造形効果に依る独特の美的表現をなす…」とあるように、旧来の工芸から離れて新たな想像の道を模索し展開していきました。

今回の展示は、その価値観の渦巻く活気溢れる戦後の日本で、新たな工芸を提示し、活躍した作家たちの作品展です。過去の価値観を離れ、様々な素材の分野で独自の表現を試みた作品は今も力強く輝いています。平成が終わり新たな時代を迎える今、時代を超えていく工芸の姿を見守りたいと思います。

【出品作家】大久保 婦久子、佐治 正、高橋 節郎、帖佐 美行、番浦 省吾、三谷 吾一、山崎 覚太郎 他



山崎 覚太郎「海老」部分 / 漆芸



大久保 婦久子「好日」部分 / 皮革工芸



番浦 省吾「野菜づくし 屏風」部分 / 漆芸



高橋 節郎「鎗金 十一面観音菩薩像」部分 / 漆芸

平成記念美術館 ギャラリー

【お問い合わせ】 03-3426-1103

〒156-0053 東京都世田谷区桜3-25-4

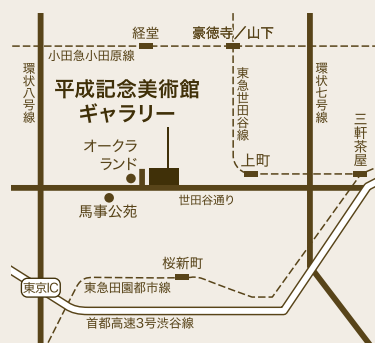
開館時間 10:00~18:00 / 観覧無料

休館日：日曜・年末年始

※2018年12月29日(土)~2019年1月4日(金)

【電車】 東急世田谷線 上町駅より徒歩10分

【バス】 渋谷駅バス停 3番乗り場「成城学園前駅西口」行 渋24(東急バス/小田急バス)「大蔵ランド前」下車 徒歩1分



【次回企画展のお知らせ】

2019年1月28日(月)~2月28日(木)

第7回 そば猪口アート公募展

そば猪口は、そばを食べる日常的な雑器でありながら、美しい細工が施され、味覚とともに視覚を楽しませる多彩なものとして好まれてきました。本公募展は、そばを食するに欠かせない「そば猪口」に着目し、広く一般から自作の作品を募集したものです。その中から厳選した126点の「そば猪口アート」をお楽しみください。

※スケジュールは予定のため、変更になる場合があります。